

【裏面：参考】

令和2（2020）年度 御船町立高木小学校 学校便り

目指す学校像

地域とともにある

勢いのある学校

No. 11(R2. 7. 21発行) 文責 校長 福田雅也

高き志【こころざし】

ふるさとの宝

少し前のことになりますが、5月末、久しぶりにホテルの光が舞うのを目の当たりにしました。思っていた以上の数の光が幻想的に舞っており、本当に素晴らしい光景でした。

場所はというと、本校の校区、高山の高山産神社の横を流れる矢谷川付近です。校区内の町会議員である中城議員さんから、情報をいただいておりますので、ぜひ自分の目で確認してみたいと思い、黄昏時に訪れてみたのです。産神社横の矢谷川には小さな滝があり、その水音がさらに幻想的な雰囲気盛り上げてくれました。この日は妻も誘ってみましたところ、「見てみたい」との返事で、夫婦二人で訪れました。私たち以外に訪問者はなく、幻想的で素晴らしい光景を二人だけで存分に楽しむことができました。（実は、私たちが去った直後に教頭先生が訪れたそうです）

子供たちが自分のふるさとの素晴らしさを再認識し、ふるさどに誇りを持ってほしいというのは、多くの教師の願いです。どこの地であっても、ふるさどには様々な素晴らしさがあり、それを受け継いできた先人の方々がいらっしゃいます。しかし、改めて取り上げたり、学習したりしなければ見逃してしまいそうなことが多くあるのも事実です。

私は、ホテルの光の乱舞を目にしながら、この光は正に「ふるさとの宝」だと感じました。豊かな自然、清らかな水の流れ、それを守ってきた人々、これらがあってこそ目の前の光があるのだと思えたからです。しかし、本校の子供たち全員がそのことを知っており、その素晴らしさを理解しているわけではないことも事実のようでした。

実は今回ホテルを見に行ってきたきっかけは、中城議員さんから、ぜひ高山のホテルについて学校でも取り上げ、学習してほしいとの依頼があったからなのです。実際にその光景を目の当たりにして、何らかの形で学校でも学習していきたいとの思いが膨らみました。私と入れ違いに矢谷川を訪れ、飯野小学校でホテルを飼育し学習を進めた経験がある教頭先生が、幼虫を矢谷川に放すことが学習のきっかけになればと、雌雄そろったホテルをつかまえ、卵を産むところまでは行きました。しかし、うまく幼虫まで育てることはできませんでした。

今回はうまくいきませんでした。今後、学校としてしっかりと検討し、計画を立て、「ふるさとの宝」として学習をしていきたいと考えているところです。

地域としても「高山ホテルの里づくり」という活動が立ち上げられ、お産と子育ての神様である「産神社」も含めて、御船町の観光名所の一つにしていきたいとの取組が始まっています。実行委員には、高山の区長さん、老人会長さん、そして中城議員さん方が名を連ねられています。教頭先生の飯野小での経験を知った中城議員さんからの依頼で、教頭先生も「顧問」に就任することが決定しました。今後、カワナが住みやすい川底にするための砕石、駐車場の整備、石橋や手すり・看板の設置等が計画されているそうです。

「地域とともにある学校」として、「ふるさとの宝」を子供たちにしっかりと伝えていく学習を進めるとともに、地域の活性化に向けた取組にしっかりと協力していきたいと考えております。